

平成 21 年度第 1 回倫理審査委員会報告

○ 目的

衛生研究所の職員が実施する調査、研究、実験及び実習等が研究対象者の人権配慮、研究内容の説明と同意等、倫理的配慮の下で適切に行われることを目的として、倫理審査委員会による審査を実施しました。

○ 開催日 平成 21 年 8 月 28 日 (金)

○ 倫理審査委員

委員長	前納 弘武	大妻女子大学社会情報学部教授
副委員長	田中 幸夫	衛生研究所副所長
委員	守屋 利佳	北里大学医学部准教授
委員	尾坂 郭子	生涯学習インストラクター

○ 審査対象研究課題

平成 21 年度研究課題のうち、検査材（人体から採取した血液等の試料）を用いる 3 研究課題について審査を実施しました。

○ 審査項目

1. 研究によって生ずる危険性と学術上の成果の総合的判断
2. 研究対象となる個人又は検査材の提供者の人権擁護
3. 検査材の入手方法

○ 研究概要と審査結果

No.	研究概要	審査結果
1	百日咳菌の遺伝子診断法による検出及びタイピング 2007 年に大学での百日咳集団感染が報告されるなど、成人の罹患率が上昇傾向にあるが、培養による分離率は非常に低く、特に、成人は保菌量が少ないため遺伝子診断法による検出に期待が寄せられており、その新しい方法として LAMP 法が注目されている。 本研究は、百日咳の LAMP 法の有用性を検証し、百日咳菌を検出した検体については MLST 法によるタイピングを行い、流行株モニタリングへの応用を試みることを目的としている。	承認
2	神奈川県で分離された淋菌の系統と薬剤感受性に関する研究 国内では淋菌の薬剤耐性菌の出現と急激な耐性化が進むとともに蔓延化しており、現在、確実な治療薬剤は 3 剤となっている。淋菌感染症の原因菌である淋菌を遺伝子解析法を利用して系統的に解析し、淋菌感染症で問題となっている薬剤耐性菌の出現原因を調査し、蔓延防止に役立てることを目的としている。	承認
3	肺炎マイコプラズマの酵素サイクリング法を利用した迅速検出法と分離培養法および PCR 法の比較 肺炎マイコプラズマは、異型肺炎をはじめとした呼吸器感染症の起因菌で、小児科領域においては重要な病原菌である。最近、肺炎マイコプラズマ感染症の重症例あるいは薬剤耐性肺炎マイコプラズマが出現しており、早期診断と早期治療の必要性から本症の迅速・簡便な診断法の開発が望まれている。本研究では、迅速簡便な抗原検出法として期待が寄せられている酵素サイクリング法による肺炎マイコプラズマ検出試薬の性能を評価し、肺炎マイコプラズマ感染症の迅速・簡便な検査法の検討を行う。	承認